

## 評価委員会総合評価

研究課題名：メソアンサンブルを利用した決定論的予測技術の改善

### 評価委員

委員長：小泉 耕

委員：石井雅男、永戸久喜、牛田信吾、山中吾郎、山田雄二、瀬古 弘、  
清野直子、須田一人、干場充之、吉田康弘、加藤輝之、川添安之

評価年月日：令和4年1月31日

### 1. 総合評価

- (1) 実施の可否  可  否  
(2) 修正の必要の有無  修正の必要あり  修正の必要なし

### 2. 総合所見

本研究は、現業メソアンサンブル予報の予報現場での利活用促進と業務改善、及び気象研究所におけるアンサンブル予報利活用に関する研究開発の両面に資するとともに、地方官署における人材育成・技術力向上にも資する重要な取り組みと考える。メソアンサンブルの高度利用による豪雨や強風の予報精度の向上は、社会的にも望まれており、複数の予報シナリオを用いた解析から学術的に有効な知見が多く得られることも期待できる。また、現在の気象予報業務の課題に向き合った重要な研究テーマであり、不確実性が大きな顕著現象のサブシナリオ検討のために、クラスター解析を用いて調査することは今後のメソや局地アンサンブル予報の有効活用をベースとした気象業務を考える上でも妥当である。今回の札幌管区と仙台管区との共同研究においてその意義が示され、同様な試みが他の管区にも広がってことを期待したい。

なお、研究の実施にあたっては、以下の点について留意して進めて欲しい。

- ・研究フロー図は、気象研と地方官署の役割分担が記入できるようなら記入していただきたい。
- ・オンライン技術を活用することで官署間のコミュニケーションや議論を円滑に行い、成果に結び付けてほしい。
- ・地方官署の参加者が札幌管区および仙台管区と北日本に偏っており、線状降水帯を含んだ大雨事例を対象とするには残念なところはあるが、気象研究所の主担当がその部分をカバーすることで研究を推進してもらいたい。
- ・調査結果は共同研究参加者だけでなく、大雨が発生した該当地方官署の職員にも情報共有し、意見を吸い上げることも考えてもらいたい。